

あいち農産物生産流通レポート

2026年5月号

	ページ
◎ マンスリーレポート	
・ イチゴ「愛さらり®」の特性を生かした新作型をご提案します！ ー 局所温度制御を活用し、年内収量を増大ー	(農業総合試験場) 1
◎ 地域ピックアップ	
・ JA愛知北 犬山ライスセンターが竣工！	(尾張農林水産事務所) 2
◎ 東京レポート	
・ 「物流の2024年問題」に関する講演 ～物流現場DXの実践～	(東京事務所) 3
・ 「GreenSnapMarche YOKOHAMA2026」が開催されました	(東京事務所) 4
◎ 東京都中央卸売市場における主要な愛知産青果物の動向	(東京事務所) 5
◎ 花 き	
・ 切花・鉢花の見通し(県内市場)	(食育消費流通課) 8

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

イチゴ「愛きらり®」の特性を生かした新作型をご提案します！ —局所温度制御を活用し、年内収量を増大—

農業総合試験場園芸研究部野菜研究室

イチゴの出荷は、例年 11～12 月に本格化しますが、年内から厳寒期にかけては需要に対して供給が少なく、高値で取引されます。そのため愛知県内の主要産地では、苗を短日夜冷処理して花芽分化を促し、収穫開始を早期化する超促成作型が導入されています。

イチゴ「愛きらり®」（登録品種名「愛経 4 号」）は愛知県と J A あいち経済連が共同開発し、2024 年 11 月に品種登録された品種で、花芽分化が早く、早期出荷に適した品種特性を有しています(図 1)。そこで、農業経営安定と産地強化を目指し、この品種特性を最大限に活用して定植後に局所温度制御で株の基部を冷却し、年内収量を増大させる新作型の開発に取り組みました。

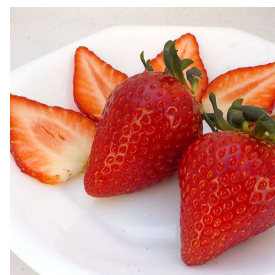


図 1 愛きらり®
(品種名「愛経 4 号」)

1 局所温度制御方法

イチゴの生長点は、株の基部に集中しています。15℃に冷却した水を循環させたチューブをイチゴ株の基部に接触させるかたちで設置し(図 2)、生長点付近を局所的に温度制御します。

2 新作型を実現する技術

花芽分化が確認できるまで短日夜冷処理を実施した苗を定植します(花芽分化の促進)。定植直後から 9 月中旬頃までイチゴ株基部の局所温度制御を行います(花芽の生長確保)。



図 2 局所温度制御によるイチゴ株基部の冷却

3 新作型の実証（農業総合試験場内ほ場）

短日夜冷処理した苗を現行作型よりも約 1 か月早い 8 月上旬に定植し、9 月中旬まで 45 日間の局所温度制御を行いました。イチゴ株の基部は、期間を通して 25℃以下に保たれました。現行作型と比較して約 1 か月早い 10 月上旬に収穫が開始され(図 3)、収穫開始から 12 月までの年内収量は約 36%増加しました(図 4)。栽培試験の結果に基づいて収支を試算したところ、装置の減価償却費用と電気代を差し引いても 10a 当たり年間約 96 万円増収する結果になりました。

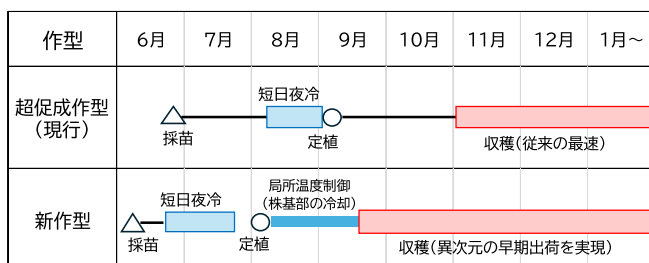


図 3 短日夜冷処理による現行の超促成作型と、短日夜冷に局所温度管理を組み合わせ開発した新作型



図 4 現行作型と新作型の年内収量比較

4 今後に向けて

今後は、生産現場で局所温度制御を活用した新作型を実証し、経営改善効果进行评估する予定です。「愛きらり®」の品種特性を活用した新作型を導入し、今までにない時期に、今までにない高品質のイチゴの生産・供給を実現することにより、愛知県産イチゴのブランド力向上と生産者の収益増加が期待されます。

J A 愛知北 犬山ライスセンターが竣工！

尾張農林水産事務所

1 共同乾燥調製施設の再編整備

J A 愛知北では、犬山・大口・扶桑の3地区で生産された米や大麦は犬山南部ライスセンターと大口カントリーエレベーターの2か所で共同乾燥調製及び貯蔵を行ってきました。

しかし、両施設とも整備から30年以上経過し、老朽化に伴う施設運営費（保守修繕費等）の増加が問題となっていました。

また、今後も農地の減少や大規模農家への農地集積の進展など、地域農業を取り巻く環境の変化が見込まれることから、2つの施設を統合し、効率的かつ安定的な運用と生産者や地域農業にとって中核となる施設を、国の補助事業（新基本計画実装・農業構造転換支援事業）を活用して再編整備しました。



犬山ライスセンターの全景

2 新規導入の設備（貯留ビン、色彩選別機）

当地は県内で最大の大麦産地であり、大口カントリーエレベーターで乾燥調製を行っていました。近年は小麦の作付が増加傾向にありましたが、大麦と小麦が混ざるおそれがあるため、小麦の受け入れはできませんでした。今回、貯留ビンが導入され、大麦と小麦のラインを確実に分けるとともに品質保持のための一時貯留が可能となりました。これにより、小麦の共同乾燥調製の受け入れが可能となり、さらなる作付増加が期待されます。

水稻については、水利の関係で出穂が9月上旬以降となるため高温障害（白未熟粒）は発生しにくいものの、カメムシ被害による着色米は近年多く見られ、等級を下げる要因となっていました。色彩選別機の導入により着色米除去が可能となり、等級の改善が見込まれます。



（上）色彩選別機
（左）貯留ビン

3 地域農業振興のシンボリックな存在へ

令和8年3月に竣工し、5月下旬の大麦から稼働します。6月初旬には小麦、9月下旬には飼料用米、10月上旬からは主食用米と順次受け入れが予定されています。

最新の設備を備え、省力・効率化を図りつつ、安定した品質の米麦を供給する地域農業振興のシンボリックな存在となることが期待されています。

「物流の2024年問題」に関する講演 ～物流現場 DX の実践～

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

EC 運営を効率化する在庫管理・物流・AI 活用などの最新ソリューションが集まる展示会「EC 管理・物流 EXPO」(主催：RX Japan 合同会社)が令和8年4月8日(水)～10日(金)に東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催されました。取材した8日(水)は物流 DX の事例に関する講演がありましたので、その概要を紹介します。

1 「中堅・中小物流企業が実践している DX 事例」

(講師：(株)船井総研サプライチェーンコンサルティング 柴田純平氏)

物流業界では、様々な人(荷主、運送会社、配達先)が関わっており、それぞれやり方が異なるため、DX が進みづらい。多くの物流現場では配車や受注管理が電話や FAX などアナログ中心である。また、ドライバーは高齢化が進み、スマホアプリなどは受け入れられにくい。このため、OCR^{*1}や RPA^{*2}による事務業務の自動化が物流 DX の第1歩である。AI を活用した事例では、AI ドライブレコーダーによる危険運転シーンを抽出・可視化や安全教育資料の作成に活用されている。勤怠管理や法令対応について、一部のベテラン社員に頼っていたが、人に依存しない管理システムの運用が進められている。

*1 OCR(Optical character recognition)：紙に書かれた文字を読み取りデジタル化する紙の文字をコンピュータで使える文字データに変換する技術

*2 RPA(Robotic Process Automation)：人がパソコンで行っている定型作業を、ソフトウェアロボットが自動で代行する仕組み

2 「物流 DX は“入れる”より“運用に組み込む”が9割」

(セイノーラストワンマイル(株)代表取締役社長 河合秀治氏)

セイノーのコンセプトは、「同業他社含むステークホルダーを巻き込んだ、新たな輸送方法の構築」。単に新技術を導入するだけでは持続しないため、現場のオペレーションに組み込んでいくことが重要と考えている。これらを意識して、セイノーは、他社とも連携し、共同配送や業務端末や追跡システムの相互連携、バトン輸送(複数社が連携した長距離輸送)を実現し、積載効率の向上や労力の削減を進めてきた。

従来、ベテランドライバーの経験に頼っていた配達順序を、AI を活用して配送ルートを最適化することで、20%の配達効率を向上。また、自動運転トラックの運用を開始し、大阪-東京間を48時間で2往復できるようになった。

中山間地域などの過疎地においては、複数社の荷物を集約し地域内配送を行ったり、ドローン配送を組み合わせたハイブリッド型物流や地域住民や高齢者、主婦層などによる「コミュニティ配送」にも取り組み、人口減少地域でも持続可能な配送体制の構築を進めている。



セイノーラストワンマイル(株)
河合氏の講演

なお、大田市場では、荷下ろし予約システムとして「EPARK(イーパーク)」が導入されている。さらなる荷待ち・待機時間の短縮ならびに現場業務負荷の軽減を図るため、新たなシステム「MOV0(ムーボ)」の導入が予定されており、物流改革は着実に進んでいる。

「GreenSnapMarche YOKOHAMA2026」が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2026年4月11日（土）から12日（日）にかけて、横浜市中区にある山下公園おまつり広場で「GreenSnapMarche（グリーンスナップマルシェ）YOKOHAMA2026」（主催：GreenSnap株式会社）が開催されました。観葉植物を販売する出展ブースや、来場者が楽しめるイベントブースを取材しましたので、その概要を紹介します。

1 「GreenSnapMarche YOKOHAMA2026」の概要

「GreenSnapMarche YOKOHAMA2026」は、植物コミュニティアプリを運営するGreenSnapが、園芸愛好家から初心者、子供まで幅広い世代の人々を対象に、花や植物を身近に感じ楽しんでもらうことを目的として、横浜市が主催する「ガーデンネックレス横浜2026」※の特別企画として開催しました。昨年は50のブースが出展し、約4万人が来場しました。8回目の開催となる今回は、2日間で53のブース出展がありました。

※ ガーデンネックレス横浜は、横浜市が主催する春と秋の大規模緑化推進イベント。山下公園や港の見える丘公園などの港エリアの庭園、里山ガーデンの大花壇、八景島のバラ園など、市内の美しい花と緑のスポットを宝石に見立て、街・人・時を「ネックレス」のように繋いで横浜ならではの花の街歩きを楽しんでもらう取組。

2 植物栽培の初心者でも気軽に育てられる商品

出展ブースでは、室内やベランダでも容易に育てられるポトスやドラセナ、モンステラなど、日陰でも育ち、乾燥にも強い観葉植物や、見た目がカラフルな多肉植物、鉢花のアジサイやカーネーションの切り花のほか、デザイン性の高い鉢植えなどの花材を扱うブースもありました。

本県からは「浅岡園芸（安城市）」、「GreenDays（知多郡）」「たにくふあ〜む（西尾市）」が出展し、様々な種類のポトスや観葉植物、多肉植物を販売PRしていました。

3 来場者が楽しめる様々なイベント

会場内には、植物を販売する出展ブースだけでなく、プールに浮かんだ花をすくう「お花すくい体験」や、塗った絵をその場でスキャンし、スクリーンに投影して動かす「動くぬりえ体験」など、子供連れ家族が楽しむことの出来るイベントブースも多く用意されていました。このうち、来場者が各出展ブースの前に貼られた二次元コードをスマートフォンで読み込んで、専用のオンラインページの中でスタンプを集めると、集めたスタンプ数に応じて植物の種や園芸資材などの景品と交換することができるデジタルスタンプラリーは、多くの出展ブースを見て回るきっかけ作りになっていました。

気軽に育てられる植物が一度に集まる本イベントは、園芸愛好家だけでなく、これまで植物を育てる経験のなかった消費者にもその魅力が伝わる貴重な機会になっていました。また、生産者にとっても、消費者と直接話すことで、出展商品の反応を直に感じながら、栽培管理の方法を詳しく伝えるなど、交流をもつきっかけになっていると感じました。



来場者で賑わう
出展ブースの様子



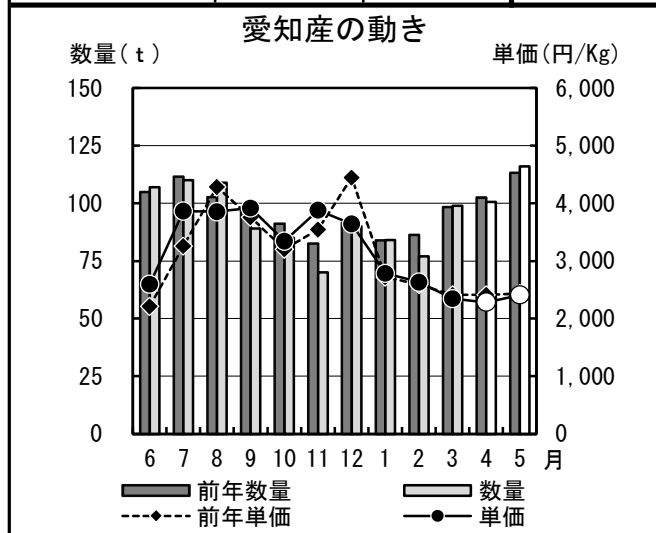
デジタルスタンプラリーの
案内看板

東京都中央卸売市場における5月の主要な愛知産青果物の動向

1 翌月の見通し

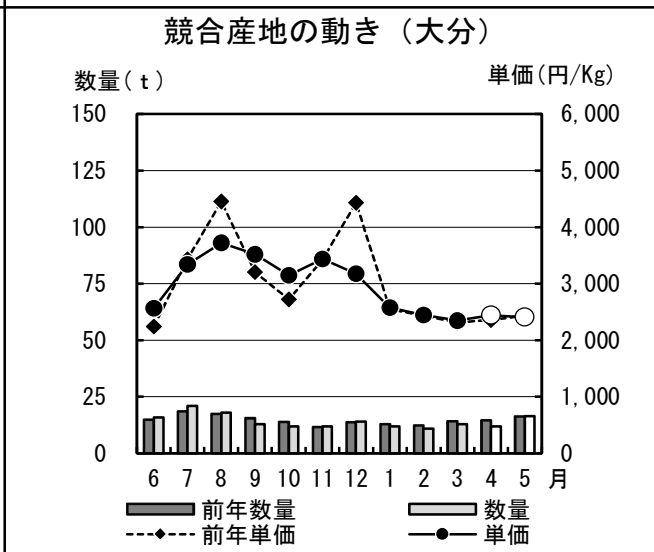
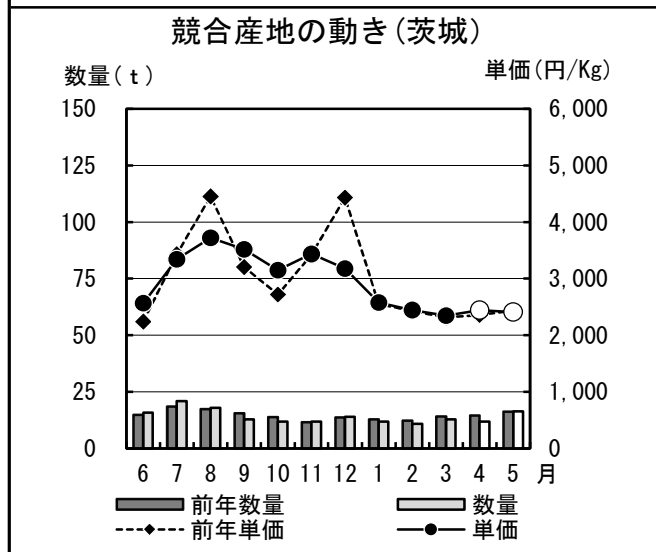
品目名 おおば

区分		入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)	前年上位3産地 (%)		市場からの提言等
実績等						
実績	2021年	96	2,185	愛知	86%	近年、夏場の高温の影響で入荷量が不安定になることがある。暑さ対策を講じ、安定した出荷数量になるように取り組んでいただきたい。市場側としても、産地と連携した宣伝活動の継続、顧客に対して産地状況を説明していくので、ご協力お願いしたい。
	2022年	96	2,906	茨城	12%	
	2023年	106	2,279	大分	1%	
	2024年	113	2,405			
	2025年	113	2,434			
5ヵ年平均		105	2,442			
2026年見通し		116	2,407			



産地概況

本県及び競合産地ともに、作付面積はほぼ前年並。各産地とも生育は概ね順調で、病害虫の発生もない。天候の影響があり若干入荷量は減り気味であるが、少しずつ増える見込み。中下旬は、天候にもよるが、前年よりわずかに多い入荷が見込まれる。



2 入荷量・価格の動き

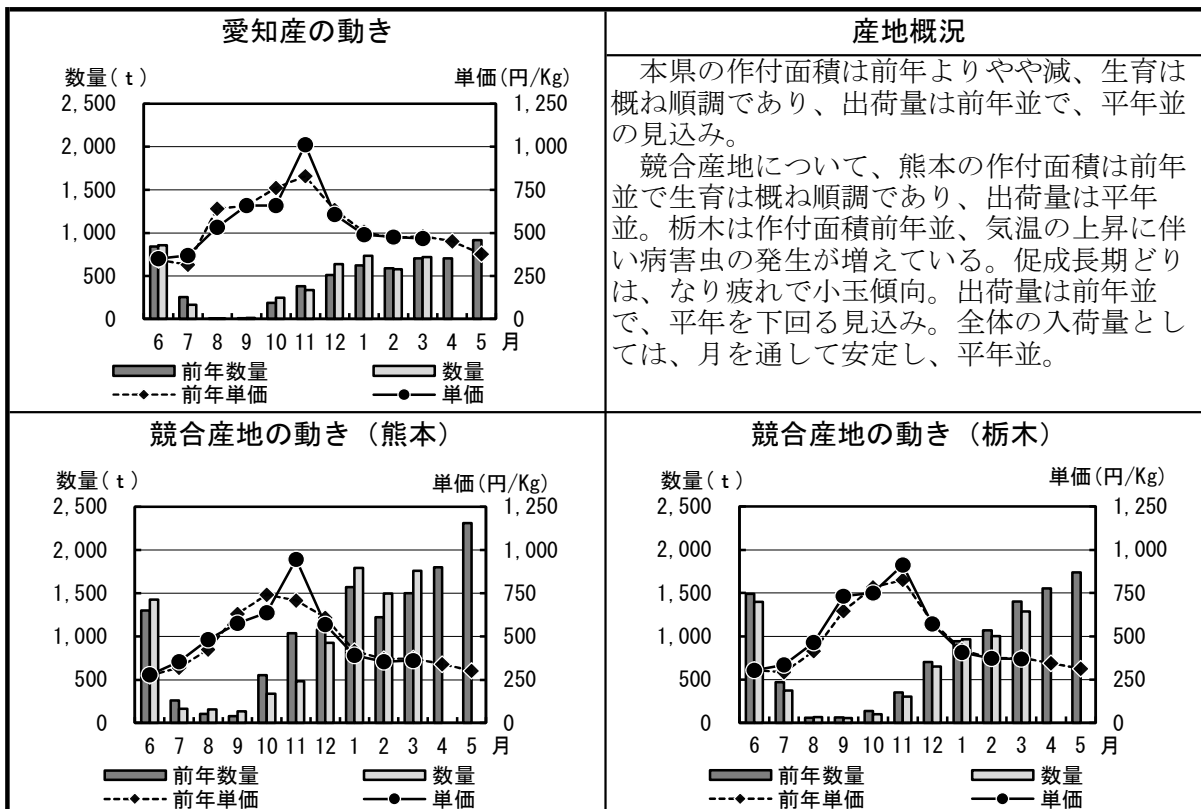
品目名 トマト

前年上位3産地 (%)

熊本 31%

栃木 23%

愛知 12%



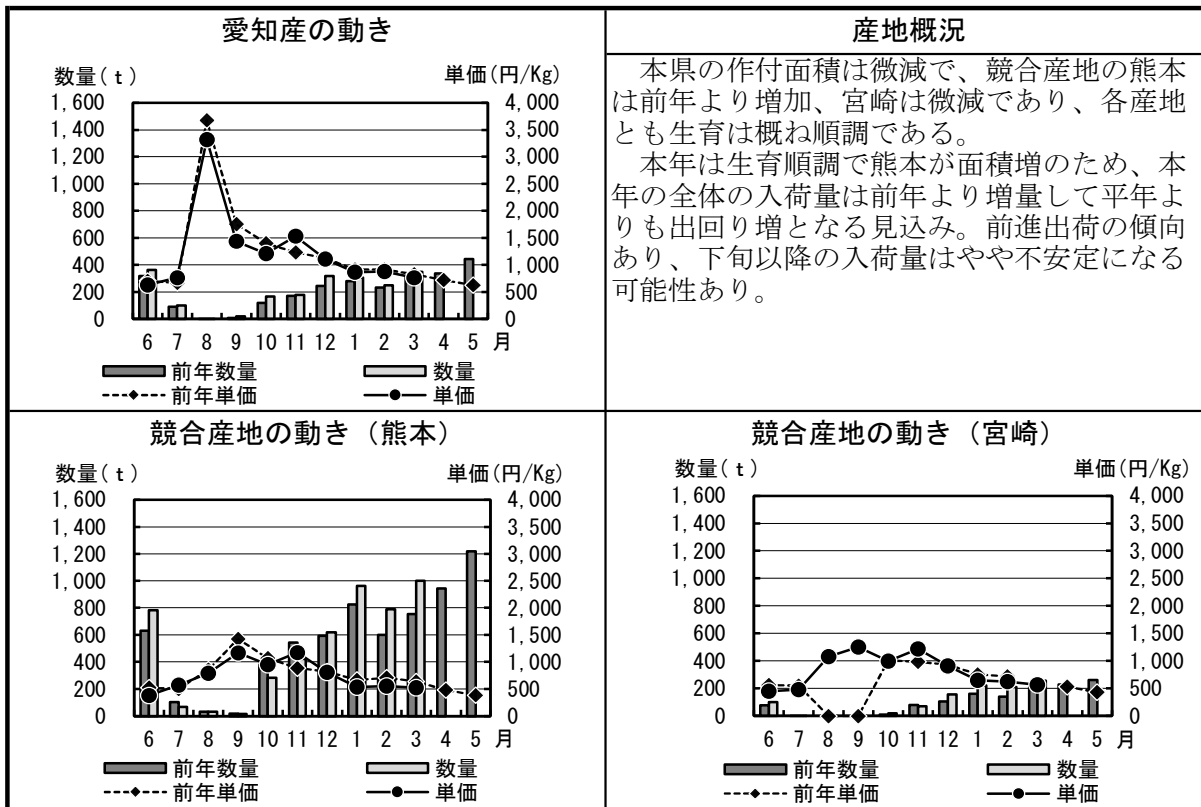
品目名 ミニトマト

前年上位3産地 (%)

熊本 47%

愛知 17%

宮崎 10%



品目名 ハウスみかん

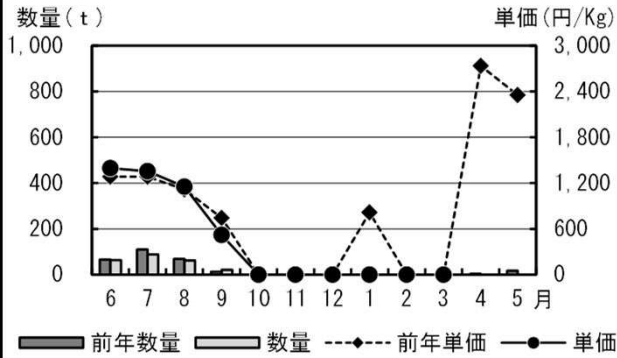
前年上位3産地 (%)

佐賀 59%

愛知 28%

大分 9%

愛知産の動き

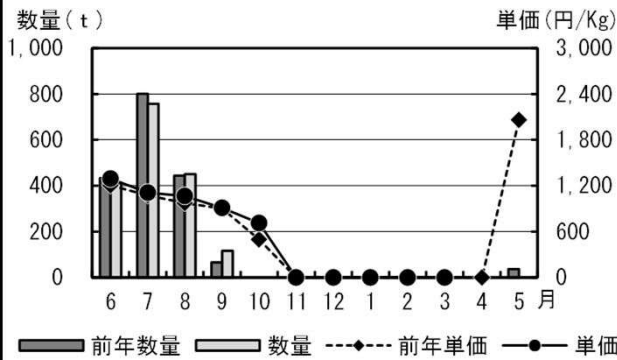


産地概況

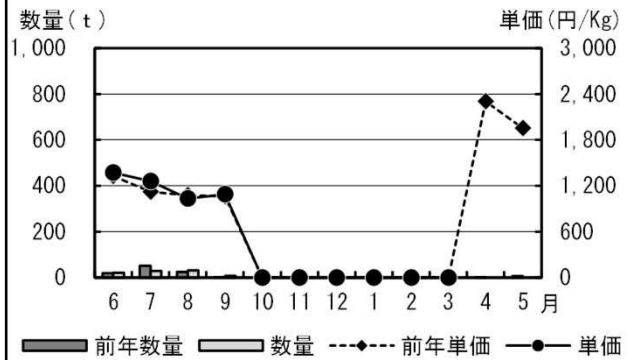
本県の作付面積は、県内各産地と前年並。蒲郡は7月～8月の需要期に数量を確保するため、5月の入荷量は前年より大幅に少なくなる。玉流れは、S～Mが中心となる見込み。知多は順調に生育し、6月中旬からの出荷を見込む。

競合産地の佐賀は、入荷量は前年並で、玉なりがよく小玉傾向。大分は前年に比べて入荷量はかなり下回る見込みで、サイズは2S中心。4月中旬から入荷が始まった。

競合産地の動き (佐賀)



競合産地の動き (大分)



切花・鉢花の5月の見通し

●前年・単価 ●本年・単価
■前年・数量 ■本年・数量

切花（愛知名港花き地方卸売市場 5月1日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2021年	1,383	26	
		2022年	1,044	69	
	実績	2023年	1,343	41	
		2024年	1,041	67	
		2025年	1,343	41	
	5ヵ年平均		1,231	49	
	2026年見通し		1,200	45	
概要	愛知中心の入荷。上旬は母の日参り需要があり、M・S中心に引き合いは強くなる見込み。中旬からは品種の切り替わりが始まってくる。秋系品種の切上りが早そうなので、数量、単価は安定しそう。				
小 ぎ	実績	2021年	836	20	
		2022年	811	44	
	実績	2023年	813	25	
		2024年	662	44	
		2025年	813	25	
	5ヵ年平均		787	32	
	2026年見通し		730	30	
概要	沖縄、愛知中心の入荷。上旬は母の日参り需要に期待。今年も愛知県産の出荷が早まる見込みで、入荷量は安定する。				
カー ネー ション	実績	2021年	1,443	44	
		2022年	1,418	53	
	実績	2023年	1,547	54	
		2024年	1,622	56	
		2025年	1,547	54	
	5ヵ年平均		1,505	53	
	2026年見通し		1,450	55	
概要	愛知、輸入が中心。国産は山谷はあるが、上旬は母の日に向け、全体的に順調そうに見える。母の日後の切上げは早そう。輸入はスタンダードで例年の6~7割程度の予想。				
か す み	実績	2021年	183	81	
		2022年	221	76	
	実績	2023年	250	74	
		2024年	205	92	
		2025年	250	74	
	5ヵ年平均		222	79	
	2026年見通し		220	80	
概要	和歌山、高知、熊本からの入荷となる。気温高から4月中下旬に全国で出荷量が多くなった。母の日については大きく減少することはなさそうだが、切上りは例年よりも早くなりそう。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2021年	250	148	
		2022年	237	168	
		2023年	260	158	
		2024年	276	158	
		2025年	260	158	
	5カ年平均	257	158		
2026年見通し	250	160			
概要	<p>オリエンタルは高知、宮崎、埼玉、新潟中心の入荷。母の日用の作付をしているところもあるが、限定的で多くの数量は見込めない。LA、鉄砲は前年並の入荷が見込まれる。</p>				
洋らん	実績	2021年	272	86	
		2022年	263	116	
		2023年	252	101	
		2024年	254	113	
		2025年	252	101	
	5カ年平均	259	103		
2026年見通し	250	110			
概要	<p>オンジウムはGWの通関の乱れにより遅延の恐れがある。上位等級中心の入荷。デンファレはアンナ、白が入荷減少し、ソニア中心。シンビジウムは国産が徐々に終了し、ニュージーランド産待ちとなる。コショウランの輸入は大幅には増えないが、国産は微増の見通し。カトレアは下旬には入荷減少、昨年に比べ前進傾向が見受けられる。</p>				
ばら	実績	2021年	740	78	
		2022年	855	89	
		2023年	895	81	
		2024年	875	84	
		2025年	895	81	
	5カ年平均	852	83		
2026年見通し	850	85			
概要	<p>愛知、岐阜、三重、長野中心に入荷。母の日商戦では輸入が例年に比べ少なめ。品種により増減はあるが、ローズの日をめがけ、出荷は増えてくると思われる。</p>				
枝も	実績	2021年	1,097	56	
		2022年	1,209	64	
		2023年	1,204	64	
		2024年	1,141	67	
		2025年	1,204	64	
	5カ年平均	1,171	63		
2026年見通し	1,200	65			
概要	<p>香菖蒲の生育は良好、母の日向けの姫リョウブ、スノーボール等は前進傾向。花木の出荷は徐々に減少するが、中旬以降はスモークツリーなどの花材の出荷が始まり、少しずつ品目品種が変わっていく。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
カラ	実績	2021年	20,402	813	
		2022年	25,109	688	
		2023年	33,708	789	
		2024年	22,817	796	
		2025年	20,153	805	
	5ヵ年平均	24,438	776		
	2026年見通し	20,655	835		
	概要	<p>入荷量は前年から大きな変化はない。例年通り5号鉢主体となるが、近年4号鉢の需要が増え、4号鉢以下の小鉢は入荷が増える見込み。母の日需要の5月上旬が出荷のピークとなり、最も引き合いが強くなる。花立ちや発色の良い黄色、ピンク、オレンジなどの明るめの色に人気が集まると予想される。</p>			
ファレノプシ	実績	2021年	28,365	3,412	
		2022年	38,053	2,570	
		2023年	40,114	3,157	
		2024年	36,354	2,628	
		2025年	31,328	3,006	
	5ヵ年平均	34,843	2,933		
	2026年見通し	31,300	3,003		
	概要	<p>入荷量は前年並か。ミディーは母の日に関連し、出荷及び注文が月前半に多くなる見込み。大輪は作付量の落ち着く時で、平年から大きな変化はないか。</p>			
バラ及びミニバラ	実績	2021年	67,313	302	
		2022年	70,214	283	
		2023年	73,716	306	
		2024年	68,260	283	
		2025年	81,942	285	
	5ヵ年平均	72,289	292		
	2026年見通し	81,000	284		
	概要	<p>入荷量は前年から大きな変化はない。3.5～5号の小鉢中心の入荷となり、母の日需要の前半は中値安定の見込み。中旬以降は気温上昇とともに軟調相場になりそう。4月の日中温度上昇などの要因から開花が進む見込みの為、咲き前に注意し出荷をお願いしたい。</p>			

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイドラランジア	実績	2021年	234,934	958	
		2022年	246,542	947	
		2023年	339,499	1,012	
		2024年	254,805	956	
		2025年	239,934	1,001	
	5カ年平均		263,143	977	
	2026年見通し		240,000	1,000	
概要	<p>入荷量は前年並か。開花状況は今後の気候によるが概ね順調。母の日以降も比較的潤沢な出荷が見込まれるが、母の日を越えると相場は厳しくなる見込み。</p>				
スパティファイラム	実績	2021年	16,217	344	
		2022年	13,981	428	
		2023年	13,561	325	
		2024年	10,489	336	
		2025年	5,463	427	
	5カ年平均		11,942	366	
	2026年見通し		5,000	450	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。ポット出荷が減り、4号以上が中心になる見込み。経費面からの価格見直し・入荷数減少などから、平均単価は上昇すると思われる。</p>				
カーネーション	実績	2021年	237,366	548	
		2022年	259,709	542	
		2023年	406,474	534	
		2024年	334,733	511	
		2025年	354,093	537	
	5カ年平均		318,475	533	
	2026年見通し		350,000	529	
概要	<p>入荷量は作付減少に伴い、前年より減少か。花の開花が早そうなこと、母の日が前年より早いことから、4月下旬から5月1週目がピークとなる見込み。前年に続き、競売での販売は苦戦が予想される。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.633
2026年5月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434